

東洋製罐株式会社横浜工場の廃棄物削減の取組について

事業場名	東洋製罐株式会社 横浜工場
事業内容	金属、プラスチックとそれらの複合材料を素材とした包装容器の製造・販売、食品関連機械、包装システムの販売および技術サービス
事業規模	従業員数：350人
廃棄物データ	産業廃棄物 発生量計：341.40 t（平成23年度実績） 特別管理産業廃棄物 発生量計：150.61 t（平成23年度実績）

1 取組の概要

東洋製罐株式会社ではグループ全体で環境活動に取り組むなか、2011年に策定されたグループ中期目標「エコアクションプラン2015」に基づき、廃棄物総排出量を削減すると共に、リサイクル性に優れた飲料缶（TULC）等の環境配慮型製品の開発により製造時に発生する二酸化炭素や産業廃棄物を大幅に削減し、環境マネジメントに取り組んできました。

横浜工場でも様々な取り組みによって、廃棄物量の削減に努めております。

2 廃棄物削減の取組内容

(1) 廃棄物分別についてのPR活動を実施

廃棄物量の削減目標や分別の目的が一目でわかるよう、場内各所にポスターを掲示いたしました。特に重要な箇所の色遣いを変更したり、イラストを用いたりして、従業員だけではなく、工場内で働くすべての人々にも読んでいただけるよう工夫をしました。

(2) 一次保管場所「エコステーション」の改善を実施

工場内の廃棄物一次保管場所を「エコステーション」に改称しました。

また、廃棄物の最終保管場所を「資源活用センター」に改称しました。名称を変更することで廃棄物の分別やリサイクルについての意識向上を図りました。

分別容器を色別にし、分別しやすいように工夫しました。（写真1,写真2）



写真1



写真2

分別容器にイラストを取り付け、投入してよい品目を具体的に示しました。

（図1・図2）

エコステーション（一次保管場所）で分別された廃棄物は工場敷地内に設置された最終保管場所「資源活用センター」に集められます。その「資源活用センター」に分別作業責任者を配置しました。

分別方法の判断に迷う従業員に、適切な指示をしています。（腕章をつけていることで認知度も上がり、迷ったら気軽に声をかけることができます。）

「資源活用センター」の案内板に廃棄物毎の写真を追加しました。（写真5）

また、廃棄物と有価物の表示を色分けするとともに、文字を大きくして見やすさを改善しました。



写真5

「資源活用センター」に「迷い箱」を設置しました。（写真6）

どうしても分別の判断が付かなかった時のため、一時溜めの「迷い箱」を設置しました。しかし、分別の判断が付かない場合、無制限に、「迷い箱」を利用する傾向がありました。

そこで、箱の側面をアクリル板にし、中身を「見える化」することで、分別作業責任者に判断を仰ぐなど、「迷い箱」に投入する量が減少し、結果として廃棄物量の削減に繋がりました。



写真6



写真7



写真8

(4) 廃棄物を有価物に変更する取組を推進

これまで廃棄物として処理していた「プラスチックチェーン」1トン分（2011年度）及び「試し刷り用フィルム」0.8トン（2011年度）を有価物として売却しました。

（写真7, 写真8）

今までは、量が少なかったことからその都度、廃棄物として処理しておりましたが、分別の徹底や、一定量まで保管し収集運搬回数を減らすことで、有価物として売却することができました。

(5) 分別教育の実施

一連の活動が停滞、形骸化しないように資源活用センターにて、定期的に分別教育を実施しています。(写真9)

当工場で働く全ての人々に廃棄物の分別を浸透させることには、今までも苦労してきましたが、根気よく教育を実施し社内に根付かせていきます。

(課長教育 1回/年 係長教育 1回/年 責任者教育 1回/年 従業員教育 随時)



写真9

(6) 食堂残滓減少への取組

残滓減少の取組として、ご飯の盛り分けを「大」「中」「小」にしました。カロリー表示をおこなうことで従業員の健康管理にもつながっています。

(写真10, 写真11)



写真10



写真11

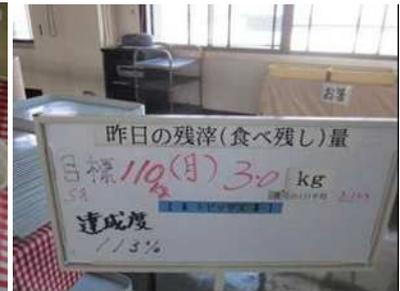


写真12

月々の残滓量(食べ残し)の目標値及び前日の残滓量をホワイトボードに記載し、「見える化」しております。(写真12)

目標に対する達成度を記載することで、従業員の意識の向上を図っています。

3 取組の成果

2010年度の廃棄物は、生産ラインからの排出、事務所・食堂からの排出をあわせて365.9トン排出されました。この量を従業員1人から排出される量に換算すると2.54kg/人・日になります。そこで、2011年度は2.0kg/人・日という目標を立て「2 廃棄物削減の取組」を実施しました。

その結果、2.2kg/人・日 削減することができました。

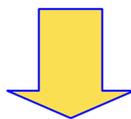
残念ながら目標には届きませんでしたでしたが、今後も継続して廃棄物削減に取り組んでまいります。

2010年度の廃棄物

365.9 ton(生産系:344.5 ton + 事務所系:21.4 ton)

約1000Kg / 日 (2.4Kg/人・日)

約59Kg / 日 (0.14Kg/人・日)



結 果

2011年度は廃棄物量一人1日当たり2.2Kg(7%削減)となりました。

4 今後の取組について

東洋製罐株式会社横浜工場では、今後も従業員を含めた敷地内で働く一人ひとりが、自覚を持って行動し、自分達ができることを確実にやりとげることで廃棄物の総排出量を削減する活動を続けていきます。

廃棄物の分別の徹底によるマテリアルリサイクル化の推進、塗料の再利用(これまで1回の使用で廃棄していた塗料を2回使用できるよう検討)等、横浜市が推進している3R行動を当工場も積極的に推し進め、更なる廃棄物量の削減につなげていきます。